

牛山榮世 (うしやまはるとし) 略歴

- 一九四三年二月五日 諏訪市に生まれる
- 一九六六年三月 信州大学教育学部卒業
- 一九六六年四月 岡山大学理学部生物科専攻
光合成の権威、藤茂宏氏に師事
- 一九六七年四月 岡山大学大学院入学
- 一九六九年四月 岡山大学大学院修了
一年間研究室の助手として勤務
- 一九七〇年四月 南安曇郡穂高南小学校勤務
- 一九七四年四月 長野市立三輪小学校勤務
- 一九七八年四月 信州大学附属長野小学校勤務
- 一九八二年四月 長野市立昭和小学校勤務
昭和小学校在職中に東京大学教育学部に
一年間内地留学
- 一九八五年四月 長野市立下水鉋小学校勤務
- 一九八八年四月 長野市立小田切小学校勤務
- 一九九二年四月 長野市教育委員会
- 一九九三年四月 長野市立三本柳小学校勤務(教頭)
- 一九九七年四月 諏訪郡下諏訪南小学校勤務(校長)
- 一九九九年四月 信州大学附属松本中学校勤務(副校長)
- 二〇〇四年四月 信濃教育会教育研究所勤務(副所長)
- 二〇一二年二月一九日 逝去(六八歳)

学びのゆくえ

— 実践者牛山榮世の軌跡 —

一般社団法人信州教育出版社編

名著『学びのゆくえ 授業を拓く試みから』 再び！

「総合的な学習の時間」の何たるかが、
実践現場のみならず構想現場でさえぐらついている今こそ、
目の前の子どもと事実とことごとん向き合い、考えぬいた、
稀有な実践者の「ことば」に還る。



発行



一般社団法人
信州教育出版社

〒380-0846 長野市旭町1098 Tel. 026-232-0291

取扱い



株式会社
しんきょうネット

本社 〒380-0846 長野市旭町1098 Tel. 026-233-1135

ご注文は、しんきょうネットまで **FAX フリーダイヤル：0120-25-1098**

学びのゆくえ 注文書

— 実践者牛山榮世の軌跡 —

下記のとおり注文します。

ご注文日： 年 月 日

■右の表には、ご注文の内訳をご記入ください。
(お届けは、平成29年12月20日以降になります。)

《学校関係の方》

学 校 名	学校
注文責任者氏名	

《学校関係以外の方・長野県外の方》

電話番号	
お届け先 ご住所	〒

注文者氏名 (公用の場合は「公用」と記入)	注文冊数

【学校関係以外・長野県外のお客様へ】

※別途送料500円がかかります。(お買い上げ税抜き10000円で送料無料)お支払いは、郵便振替となります。

※FAXフリーダイヤルは、長野県内のみです。県外よりお申し込みの場合は、

E-mail : sales06@shinkyō-net.co.jp または、TEL : 026-233-1135 までお願いいたします。

『学びのゆくえ』——実践者牛山榮世の軌跡——『発刊によせて』

公益社団法人信濃教育会会長 後藤正幸

二〇〇一年五月に発刊された牛山榮世著『学びのゆくえ 授業を拓く試みから』が、絶版から長い年月を経て、信州教育出版社から再び発行されることになった。これには、長野県の現職教師たちが「学びのゆくえ」の再版を繰り返し強く願っていた背景があることは言うまでもない。それは、学校現場が今こそ「学びのゆくえ」を必要としている証であり、牛山榮世が危惧した「よるべき岸も、降ろすべき礎も見当たらず、学びの『漂流』」を、心ある教師たちがまさに今、目の当たりにしているからではないだろうか。

本著は「学びのゆくえ」と「教育の窓を開く」、それに牛山佐智恵夫人による「踏みしめてきた道」から成り立っている。

「学びのゆくえ」が、牛山榮世が教育実践者としてその真つ只中に在って綴られたものである一方、「教育の窓を開く」は佐智恵夫人が奇しくも「踏みしめてきた道」の中で「現場を退き、教育研究所、稲垣忠彦先生のもとでの思索の八年間」「研究所は、牛山にとつて、常識やしごらみから解放されて、徹底して子どもの立場に立つて考える訓練の場」と明言した信濃教育会教育研究所の副所長時代に書かれたものである。

さらに、佐智恵夫人による「踏みしめてきた道」には、牛山榮世の生い立ちと出会い、「教育」の道を歩んだ牛山榮世と教職を辞して「保育」の道を決意し、自宅で保育園を経営してきた佐智恵夫人との呼応の日々が綴られている。教育実践者牛山榮世の研究者としての生き方に新たな視点を与えてくれる大変貴重なものであると言えよう。

とことんその人の身になってみる想像力こそがまさに教育実践の極意だと、終始身をもって示唆されていた「実践者 牛山榮世」であったことを改めて思う。

『学びのゆくえ』——実践者牛山榮世の軌跡——あとがきから

信州大学大学院教授 畔上一康

あれは二十歳のときだった。全身の血が入れ替わっていくような感覚を覚えた世界、「学びのゆくえ」に記された『世界の内』を目の当たりにした教育実習は、その後何処に居ようと、如何に居ようと、私が教師として今ここに居る理由となっていた。また私がそうであるように、体に刻み込まれた『私の牛山先生』と生き、これからもそうしていくだろう教師や研究者がどれだけ多くいることか。(略)

たどれば、一九一七年、総合学習の源流とされる長野県師範学校附属小学校の「研究学級」の創設から、今年、奇しくも百年目に当たる。世紀を超えて引き継がれてきたこの系譜の中にあって、淀川茂重がそうであるように、牛山榮世その人もまた、薫染の人として歴史に刻まれることを改めて想う。牛山先生はこのように記している。「人は状況が混とんとする程に、自分が根ざすところに還ろうとする。そこから自分の位置を確認しようとする。あるいは根ざしどころを探そうとする。そんな気がする。自分はどこから来て、どこへ行くのか。さまざまにしまいそうな自分をつかまえて、自分に聞いてみる。それらを互いに聞き合ってみる。いま、こうしたことが最も必要な『時』かもしれない。」と。

私たちはこれまで経験したことのない急速な社会変化の中で、便利な暮らしを手に入れた。しかし、実感の喪失がそうであるように、私たちは便利さと引き換えに、どれほどのものやことを時代に差し出し、手放してきたのだろうか。経験と実感に基づく本書は、そうした時代に生きる私たちに、身の丈の自分と向き合う勇氣と、借り物でない自らの足で立つ力を与えてくれる。そして、これから先、読み継がれる中で、真実に目を伏せず誠実に歩もうとする教師たちの還りどころとなることを願う。

『学びのゆくえ』——実践者牛山榮世の軌跡——

目次

序にかえて 信濃教育会会長 後藤正幸

I 学びのゆくえ

序——世界の内と外

第一章 学びのゆくえ

第二章 学校の自律

第三章 体験と学び

第四章 中学校での「総合的な学習の時間」

終章——学びの「成り立ち」

あとがき

II 教育の窓を開く

- 自分の変化を自覚する教師
- こみあげてくるもの
- 子どもの事実を記録するということ
- 学校の忙しさは、変わらないか
- 相手を「征服」するということ
- 「先生はいばつてる！」のショック
- 自分を踏み外さぬ自分であるために
- 言わずもがなのこと
- 自分に聴く「時」をもつこと
- 自分を記すということ
- 「総合」のゆくえ
- おまえの「軸」は何か

子どもの天地

「手を後ろで組んで」から

だんだん見えてくる

困難を分かち合いたい

自分が壊れそうだから

ことばと内実

子どもと共に居る感覚

「もの」が「こと」になるということ

「自然と共に在る」ということ

統「自然と共に在る」ということ

自分の「ありさま」が見えてくるとき

〇〇君のために教材研究をしたい

春に

踏みしめてきた道

——夫・榮世の「学びの終章」——

牛山佐智恵

あとがきにかえて

信州大学大学院教授 畔上一康

『学びのゆくえ』——実践者牛山榮世の軌跡——

■A5判・並製・カバー装

一九二頁

■定価 一六二〇円(二五〇円+税)